

令和6年度 授業改善プラン 全体計画

松仙小学校

学校の教育目標

- ★じょうぶな子ども
- よく考える子ども
- 思いやりのある子ども

学校経営方針（抜粋） ～授業改善との関連～

- 確かな学力の定着
- 体力の向上
- ICT等の教育機器の活用

○各教科

- ・クロムブックを活用し、わかる授業・質の高い授業作りを目指し、指導法の工夫・改善に努め児童の基礎学力の定着を図る。
- ・体力、健康に関する意識の向上を図る。

○特別活動

- ・集団活動への参加を通して、児童が自発的に活動する力を育てるとともに、集団の一員としての自覚を高め、協力してよりよい生活を送ろうとする態度を培う。

○総合的な学習の時間

- ・横断的・総合的な学習を通して、唯一解のない問題を探究的・協働的に解決する資質・能力を育成する。
- ・これからの社会を共に生きる上での自己の生き方を考えさせる。

○進路指導

- ・道徳や学活の時間を通して、将来への希望等期待感や進学先の学校での活躍をもてるようにする。適宜キャリアパスポートを活用する。

○道徳教育

- ・教科書や実際の出来事、説話を通して、自他の存在を尊重し、相手を思いやる心情と態度を養い、道徳的実践力の育成を図る。
- ・道徳教育を柱とした小中一貫教育を通し、授業を改善し、未来を担う児童生徒の育成をする。

○生活指導

- ・休み時間の充実を図る。中休みは20分、昼休みは30分とし、学年ごとに校庭、屋上、体育館で活動場所を割り振り、十分活動できる広さを確保する。
- ・校長講話の振り返りや生活目標との関連づけ等意識的継続的な指導を通して、よりよい生活をするために必要な規範意識の向上を図り、基本的な生活習慣の確立をめざす。

<授業改善>

○学習指導の工夫・改善

- ・各教科の学習の決まり、基本事項（松仙スタンダード）を全児童に徹底し、学習規律が身につくようにする。
- ・1単位時間の学習のめあて・学習の流れを提示し、振り返りを行う。
- ・算数では習熟度別授業を実施し、各コースに応じた指導の工夫を積極的に行い、個々の学習進度に合った授業を実施する。
- ・体育では学習カードを効果的に活用したり、学習の流れを明示したり、場の設定を工夫したりするなどして、学習の充実を図る。
- ・外国語活動では、研修や授業研究を活かした専科教員による授業を実施する。
- ・タブレット等のICT教育機器を活用し個別最適な学びと協働的な学びをバランスよく構築する。タブレットの活用については、各学年において最低限経験させたい内容を段階的に整理し、校内で共通理解を図る。
- ・支援を必要とする児童に対し、学習の流れを明示して見通しをもたせたり、具体物を活用するなど指導の工夫をしたりする。

○教育課程編成上の工夫

- ・児童の健康観察を確実に実施するために、朝会ではなく昼会を実施する。
- ・45分の授業時間を確保するために、集会や昼会を時間内に実施する。
- ・図書の時間や図書委員会の活動、10月実施予定の本校独自の読書活動を活用し、読書への関心の向上及び読書習慣の形成を図る。

○校内における研究や研修の工夫

- ・来年度から始まる教科「おおたの未来づくり」を研究教科とし、研究主題「笑顔でいきいきと学ぶ子の育成」を設定した。その達成に向けて外部講師を招き、研修を深め、授業力の向上を図る。
- ・児童が価値ある課題を見つけ、自分の課題に応じた学習を進められるように、教材や学習カードの工夫、環境整備や年間指導計画の見直しなどに取り組み、新教科「おおたの未来づくり科」の学習を推進するための環境を整える。

○家庭や地域社会との連携の工夫

- ・地域教育連絡協議会や保護者へのアンケートによる外部評価の内容を真摯に受け止め、授業改善の視点としたり、次年度の教育課程に反映させたりする。
- ・サポート松仙との連携を深め、地域の教育力を生かした多様な教育（学習）活動を実践していく。

○生活科、理科の授業改善を図る。

- ・体験的な学習や繰り返し（継続的）学習の充実を図る。学年に応じて見通しをもった観察、実験を行い、問題解決の能力を育てる。
- ・思考ツールを活用し、予想や実験の結果を整理し、生活科における個々の発見や疑問、理科の見方、考え方を可視化する。